

	城ヶ島海底およびビーチクリーン	のべ 113 名参加	参加者（会員のべ 8 名、その他のべ 105 名）イオン環境財団からの助成事業として、城ヶ島ダイビングセンターとの協働で、陸上のビーチ清掃とボランティアダイバーによる海底清掃を実施。9 月に 2 回実施。トータル 65.27kg のゴミを回収。三浦市の基準に従って適切に処理しました。
	茅ヶ崎沖海底清掃	のべ 20 名参加	参加者（会員のべ 5 名、その他のべ 15 名）イオン環境財団からの助成事業として、茅ヶ崎沖海底のボランティアダイバーによる海底清掃を実施。12 月と 1 月に各 1 回、計 2 回実施。トータル 27.46kg のゴミを回収。茅ヶ崎市の基準に従って適切に処理しました。
	大岡川不法投棄自転車の引き上げ	のべ 93 名参加	参加者（会員のべ 15 名、その他のべ 78 名）イオン環境財団の助成事業として、大岡川に不法投棄されている自転車の引き上げを実施。3 月に 2 回実施。5 台の自転車を引き上げ。神奈川県警察による検分後、産業廃棄物として適切に処理しました。
	広報紙の発行		
	大岡川ニュース 4 号発行	4 名 5,000 部	年に 4 回発行している広報紙、4 月に 4 号、7 月に 5 号、11 月に 6 号、1 月に 7 号を発行しました。この年度より 6 ページへ増ページ、発行部数を 5,000 部/回としました。
	大岡川ニュース 5 号発行	4 名 5,000 部	
	大岡川ニュース 6 号発行	4 名 5,000 部	
大岡川ニュース 7 号発行	4 名 5,000 部		
平成 30 年度	小学校への環境出前授業	のべ 640 名の小学生に実施	よこはま夢ファンド助成事業として、横浜市立日枝小学校で 20 回実施。小学校への環境出前授業を本格的に取り組むため、教室での座学、公園の親水エリアで生物観察、大岡川源流域・氷取沢見学など、環境出前授業のやり方と問題点の洗い出しを担当の先生と一緒に行ないました。その過程で、牛乳メーカーへのストロー不要のパッケージの提案、目白大学児童教育学科とのセッション授業、パタゴニア横浜・関内ストアとのコラボ授業などを展開しました。
	大岡川 PGT 大作戦	のべ 734 名参加	参加者（会員のべ 118 名、その他のべ 616 名）TOTO 水環境基金の助成事業として、毎月 2 回、大岡川のゴミ拾いを行ない、23 回実施しました。拾ったゴミの総重量 698.204kg のゴミを回収。適切に処理しました。
	大岡川写真展の開催	のべ 1,680 名参加	参加者（会員のべ 80 名、その他のべ 1,600 名）TOTO 水環境基金、よこはま夢ファンド、イオン環境財団の助成事業として、海洋プラスチック汚染についての写真展を開催。横濱ロータリークラブさんとの協働でみなとみらい MM テラス、東京湾大感謝祭に出展しての赤レンガ倉庫会場、大岡川運河パレードに出展

		しての日本丸メモリアルパーク会場で開催しました。活動や大岡川ニュースのPR、会員の入会にもつながりました。
城ヶ島海底およびビーチクリーン	のべ 298 名参加	参加者（会員のべ 18 名、その他 280 名）イオン環境財団、セブンイレブン記念財団からの助成事業として、城ヶ島ダイビングセンターとの協働で、城ヶ島漁業協同組合、釣り具のダイワ（グローブライド 株式会社）の協力も得て、陸上のビーチ清掃とボランティアダイバーによる海底清掃を実施。9 月に 2 回 12 月と 1 月に 1 回ずつ計 4 回実施。トータル 435.659kg のゴミを回収。三浦市の基準に従って適切に処理しました。
茅ヶ崎沖海底清掃	のべ 22 名参加	参加者（会員のべ 6 名、その他のべ 16 名）イオン環境財団の助成事業として、茅ヶ崎沖海底のボランティアダイバーによる海底清掃を実施。12 月と 1 月に各 1 回、計 2 回実施。トータル 117.74kg のゴミを回収。茅ヶ崎市の基準に従って適切に処理しました。
大岡川不法投棄自転車の引き上げ	のべ 48 名参加	参加者（会員のべ 10 名、その他のべ 38 名）セブン-イレブン記念財団の助成事業として大岡川に不法投棄されている自転車の引き上げを実施。1 月と 2 月にそれぞれ 1 回、計 2 回実施。4 台の自転車を引き上げ。神奈川県警察による検分後、産業廃棄物として適切に処理しました。
川でつながる SDGs 交流会の実施	のべ 154 名参加	参加者（会員のべ 15 名、その他のべ 139 名）8 月に当 NPO、株式会社大川印刷、株式会社太陽陽建の三者で、大岡川をベースに、川から人へ、人から暮らしへと、川で人と企業と行政がつながって行くための交流会を発足。奇数月開催と定め、9 月に第 1 回目を協働開催。その後も 11 月、1 月、3 月と協働開催しました。1～3 回は、協働の各社代表がスピーカーとなり、3 月開催の第 4 回目からは外部の方にお願ひし、SDGs デザインセンター信時正人センター長による講演となりました。
広報紙の発行		
大岡川ニュース 8 号発行	4 名 5,000 部	年に 4 回発行している広報紙、4 月に 8 号、7 月に 9 号、11 月に 10 号、1 月に 11 号を発行しました。10 号より 8 ページへ増ページしました。
大岡川ニュース 9 号発行	4 名 5,000 部	
大岡川ニュース 10 号発行	4 名 5,000 部	
大岡川ニュース 11 号発行	3 名 5,000 部	

令和元年度	小学校への環境出前授業	のべ 700 名の小学生に実施	横浜市立瀬谷第二小学校 7 回、横浜市立日枝小学校 6 回、横浜市立大正小学校 1 回、横浜市立馬場小学校学童保育 1 回、横浜市立荏田東第一小学校 2 回、横浜市立中尾小学校 1 回実施。教室での座学から始まり、茅ヶ崎海岸でのマイクロプラスチック粒子採取、マイクロプラスチック粒子を使った万華鏡作り、城ヶ島海岸での漂着プラスチックゴミ視察および回収処理実習を実施しました。
	茅ヶ崎市でのワークショップ	18 名	参加者（会員 3 名、その他 15 名） 茅ヶ崎市高砂コミュニティーセンターとの協働で実施しました。子どもたちを集め、プラスチックごみについての座学、茅ヶ崎海岸でのマイクロプラスチック粒子採取、マイクロプラスチック粒子を使った万華鏡作りのワークショップを開催しました。
	大岡川 PGT 大作戦	のべ 446 名参加	参加者（会員のべ 69 名、その他のべ 377 名）毎月 2 回、大岡川のゴミ拾いを行ない、悪天候のために実施できなかった回もありましたが、12 回実施し、513.769kg のゴミを回収。適切に処理しました。
	城ヶ島海底およびビーチクリーン	のべ 291 名参加	参加者（会員のべ 12 名、その他のべ 279 名）城ヶ島ダイビングセンターとの協働で、城ヶ島の海底をボランティアダイバーたちが潜って海底のゴミ拾い。陸上は、小学生たち、ダイワヤングフィッシングクラブのメンバー、釣り人、一般観光客の参加によりビーチクリーンを実施。9 月に 3 回、11 月に 1 回実施。トータル 173.617kg のゴミを回収。三浦市の基準に従って適切に処理しました。
	川でつながる SDGs 交流会の実施	のべ 96 名参加	参加者（会員のべ 9 名、その他のべ 87 名） 当 NPO、株式会社大川印刷、株式会社太陽住建の三者協働にて 5 月、7 月、9 月と開催。NPO 法人ぶかぷかの理事長高崎明氏、三承工業株式会社の寺田有希美さん、西岡徹人社長、ソーシャルアクションカンパニー株式会社の佐藤正隆氏、公益財団法人地球環境戦略研究機関の藤野純一氏と片岡八東氏、株式会社太陽住建社長の河原勇輝氏、横浜市資源リサイクル協会の戸川孝則氏による講演。講演後は交流会としました。
地球温暖化現象のアフリカ・キリマンジャロ山頂の氷河取材	1 名	小学校への環境出前授業のテーマとして、地球温暖化はテーマリクエストとして多くなってきています。ただ、具体的な話をしようとする、意外ときちっとした具体例を示すことは難しく、子どもたちへの話も曖昧な形で終わってしまいがちです。そこで、2008 年に国連が警鐘を鳴らしたアフリカ大陸最高峰・キリマンジャロ山頂（5,895m）の氷河の融解を豊田理事長がクラウドファンディングで資金を集め、撮影及び取材をしてきました。今後、取材してきた写真をベースに、多くの小学校や一般の方たちへ環境出前授業や講演を行なっていく予定です。	

広報紙の発行	3名	年に4回発行している広報紙、4月に12号、7月に13号、11月に14号を発行しました。13号より発行部数を6,000部/回としました。
大岡川ニュース12号発行	5,000部	
大岡川ニュース13号発行	3名 6,000部	
大岡川ニュース14号発行	4名 6,000部	

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	大岡川 PGT (P プラスチック G ゴミ T 獲ったどお) 大作戦	下記にこの活動の詳細を記してあります。 第三土曜日の日ノ出町・黄金町エリアのゴミ拾いの際、日ノ出町自治会、日ノ出町青年会、それぞれの会員参加などのご協力をいただいています。
学校との関わり	環境出前授業と実習の実施	<p>学校教育の総合学習において、単に単発的な出前授業では終わらず、年度を通じての総合学習支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市立瀬谷第二小学校6年1組 テーマ:海洋プラスチック汚染とマイクロプラスチック 横浜市立日枝小学校4年2組 テーマ:プラスチックゴミと海洋プラスチック汚染、マイクロプラスチック 横浜市立荏田東第一小学校3年2組 テーマ:プラスチックゴミと海洋プラスチック汚染、マイクロプラスチック 横浜市立中尾小学校5年2組 テーマ:海洋プラスチック汚染とマイクロプラスチック <p>瀬谷第二小と日枝小は、茅ヶ崎市茅ヶ崎海岸へのマイクロプラスチック粒子採取実習、三浦市城ヶ島への漂着プラスチックゴミ視察と回収実習を行ないました。また両校は、当NPOと一緒に桂川・相模川流域協議会のシンポジウムとエコプロダクツ展で活動報告を行ないました。</p> <p>単発出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市立大正小学校5年生 テーマ:海が終われば、地球は終わりだ! ~プラスチックゴミと海洋プラスチック汚染~ 横浜市立馬場小学校学童保育 テーマ:海が終われば、地球は終わりだ! ~プラスチックゴミと海洋プラスチック汚染~ 横浜市立東高校1年生および2年生 テーマ:イーストタイムプレミアムプログラムII講座 プラスチックと環境、マイクロプラスチックを減らす
	大岡川 PGT (P プラスチック G ゴミ T 獲ったどお) 大作戦	下記にこの活動については詳しく記載してありますが、第三土曜日に実施している大岡川流域のゴミ拾いに、横浜市立日枝小学校の5年生有志と4年2組(担任の先生も参加)の子どもたちが毎回参加してくれています。ゴミの重量のデータも取り、授業内容に反映してくれています。

	<p>大学との連携</p>	<p>横浜市立日枝小学校において、当NPOと一緒に行った環境出前授業をきっかけとして、目白大学児童教育学科の石田好広教授とそのゼミの学生たちとつながりました。現在も双方において情報交換などを行っています。近いうちに何か連携してアクションを起こす予定です。</p>
<p>他の市民団体との関わり</p>	<p>大岡川 PGT (P プラスチック G ゴミ T 獲ったどお) 大作戦</p> <p>茅ヶ崎沖海底清掃およびビーチクリーン活動</p> <p>桂川・相模川流域協議会シンポジウムの開催</p> <p>講演</p>	<p>毎月第一土曜日と第三土曜日に実施している大岡川流域のゴミ拾い。</p> <p>第一土曜日は、井土ヶ谷エリア。このエリアでは、グリーンバード横浜南とそれぞれの会員やメンバーが運営し、参加するという協働にて活動を行なっています。</p> <p>第三土曜日は、日ノ出町・黄金町エリア。このエリアでは、横浜 SUP 倶楽部とそれぞれの会員やメンバーが運営し、参加するという協働にて活動を行なっています。また、私たちの活動に、横浜海洋市民大学、ハマの海を想う会、桜栈橋 e-boat club、NPO 法人濱橋会の会員やメンバーが参加するという協力をいただいています。</p> <p>この活動に対し、桂川・相模川流域協議会から活動資金の一部を補助していただくというご支援をいただいています。</p> <p>11/10 (日) 茅ヶ崎市役所分庁舎コミュニティホールにて開催されたシンポジウムに関して、会のメンバーとして当 NPO が所属し、シンポジウム開催実行委員として実務にあたっています。シンポジウムは、神奈川県と山梨県による水源環境保全・再生のための施策や取り組みを多くの人たちに知っていただくためのもので、216名の参加がありました。また来年度より、当 NPO 豊田理事長が当団体の横浜部会のリーダーとなる予定で話が進んでいます。</p> <p>一般社団法人 SDGs 活動支援センター (令和元年 7/7 アースデイ鎌倉において SDGs とプラスチックフリー 身近な海のプラスチック汚染について 対象者 鎌倉市民)、一般社団法人 SwitchSwitch (令和元年 11/24 環境ふくい未来創造事業において生命のつながり～地球温暖化によるキリマンジャロの山頂氷河溶融から深刻な海洋プラスチック汚染～について 対象者福井県民)、横濱ロータリークラブ (平成 29 年 10/24 同クラブ例会において大岡川環境保全再生活動について 対象者 同クラブメンバー)、横浜学童保育連絡協議会 (令和元年 12/1 研究集会において海洋プラスチック汚染とマイクロプラスチックについて 対象者同協議会会員)、川でつながる SDGs 交流会 (令和元年 11/27 例会において地球温暖化によるキリマンジャロ山頂氷河の溶融について 対象者 一般) などから講演の依頼。</p>

企業等との関わり	川でつながる SDGs 交流会	奇数月に「川でつながる SDGs 交流会」を株式会社大川印刷、株式会社太陽住建、当 NPO の三社協働で開催しています。ここに多くの企業の方たちや一般の方たちにもご参加いただき、机上の SDGs ではなく、SDGs の現場アクティビストを養成する交流会としています。
	大岡川ニュースの発行	年 4 回発行している大岡川ニュース（A3 判 オールカラー 8 ページ 毎号 6,000 部）の制作・発行に次の企業さまに広告出稿いただいています。 株式会社大川印刷、医療法人社団 湘南太陽会、医療法人秀晃会 馬車道レディースクリニック、アサヒタクシー株式会社、株式会社ワイズカーセールス、株式会社オオスミ、T's、BAR ENMA、株式会社勝烈庵、株式会社横濱屋、有限会社共栄商事不動産、株式会社ここくらす、吉田興産株式会社、株式会社一品香、三好商会グループ、株式会社太陽住建、株式会社キクシマ、合名会社川本屋商店、ぐみょうじ車屋呉服店、株式会社加賀美自動車、有限会社登良屋。
	大岡川 PGT 大作戦	この活動に対して、参加メンバーとしてご協力いただいています。 井土ヶ谷エリア 公益社団法人日本退職者協会 日ノ出町・黄金町エリア TOTO 株式会社横浜支社、横濱ロータリー倶楽部、一般財団法人大岡川川の駅運営委員会、公益社団法人日本産業退職者協会。
	城ヶ島海底清掃およびビーチクリーン活動	この活動は年度内に数回実施しており、城ヶ島ダイビングセンターと協働で行なっています。またこの活動に対して、城ヶ島漁業協同組合、釣り具のダイワ（グローブライド株式会社）にもご協力いただいています。特にダイワさんからは、この会社が運営するダイワヤングフィッシングクラブのメンバーをビーチクリーン活動に送り込んでくれています。
	カレンダー	2020 年の横浜信用金庫カレンダー。SDGs カレンダーとして、「よこはま水物語」というテーマで、全て豊田理事長が撮影した横浜市の水源地・山梨県道志村の水の写真で構成されました。また、カレンダー展として横浜信用金庫店舗にて写真展も開催されることになりました。
助成	公益財団法人イオン環境財団、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、TOTO 水環境基金、一般社団法人コンサベーション・アライアンス ジャパン、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、富士ゼロックス端数倶楽部、パタゴニア、一般財団法人 NPO 法人等支援池田財団（アイネット地域振興財団）、ヨコハマ SDGs デザインセンター。	

	講演	横浜第二印刷工業団地協同組合（平成 30 年 11 月 SDGs の取り組みについて 対象者 同組合メンバー 令和元年 11/15 地球温暖化とキリマンジャロ山頂氷河溶融について 対象者 同組合メンバー）、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（平成 31 年 3/14 SDGs 中小企業フォーラムにおいて、海洋プラスチック汚染とマイクロプラスチックについて 対象者 同社社員および関連会社社員）より講演の依頼。
行政との 関わり	助成	横浜市市民局 市民活動支援課 「よこはま夢ファンド」から小学校への環境出前授業事業について助成いただいています。
	協働	横浜市温暖化対策統括本部 YES 協働パートナーに登録しています。神奈川県 SDGs パートナーに認定され、協働で動き始めています。茅ヶ崎市高砂コミュニティーセンターとの協働でマイクロプラスチックについての座学とワークショップを開催しました。
	委員	理事長豊田が、神奈川県水源環境保全再生かながわ県民会議委員に任命されて委員として水源環境保全再生の活動を行なっています。
	講演	神奈川県（平成 28 年 11/5 神奈川県県民フォーラム とともに築く水源環境～かながわ 910 万人の挑戦～において かながわの水物語について 対象者 神奈川県民）、福井県（令和元年 11/23 ふるさと環境フェアにおいて海洋プラスチック汚染について 対象者 福井県民）などから講演の依頼。
その他、 環境以外 の分野と の関わり	芸術家（作曲家、演奏者、写真家、映像作家、画家、デザイナー）	以前の活動で、ビジュアルコンサートを開催・運営している関係で、音楽家の人たちの連携が強くあります。映像の BGM 制作やイベントの際のコンサート開催など、現在でも連携を保っています。写真家や映像作家とは理事長豊田の仕事の関係で多くの方たちと連携しています。また画家やデザイナーなどとの連携も強く持っています。

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

2000 年から代表・豊田直之が、写真家として鹿児島県・屋久島で写真作品「水の輪廻」を撮影開始。撮りためた作品でスライドショーの作成を始めました。BGM も作曲家に依頼し、2009 年より音楽家たちとビジュアルコンサート（環境映像と音楽の生演奏のコラボレーション）を企画・開催。好評を得て、800 名、1,400 名の観客を動員。環境保全・再生を目的とした社会貢献の活動をしていこうという話になり、2012 年に NPO 法人化。会員は 13 名。活動を続けるも、会員数は 3 名増えたのみでした。2016 年春

に広報紙「大岡川ニュース」創刊準備号を発行。この時点で会員 45 名。夏に創刊号を発行し、広報をしっかりとしていくこと、また広報誌を活用して様々な団体や企業などを訪問しました。2017 年春には会員数が 176 名に。2019 年現在で 217 名となりました。会員が増えるのと同時に、私たちの活動に多くの方たちが参加するようになり、また助成申請が採択されるようになり、活動の幅がどんどん増えている状況です。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

1. 大岡川をベースに、小学生から高齢者の方まで、ゴミ拾いを通じて啓蒙し続けています。

大岡川という河川を通じて、海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックなど、社会の課題に多くの人たちを気づかせる機会を多く設け、その課題を当事者として捉えてもらえています。多くの人たちの創造力を引き出しつつ、一緒に問題を解決する方向にベクトルを向けています。

2. 年 4 回発行の広報紙が、身近な環境問題の普及啓蒙に大きなチカラを発揮しています。

私たちが大岡川の源流から河口まで取材するうちに、この川の生物多様性、環境問題、歴史、文化などに触れ、この川に多くの興味を持ちました。それらをひとつひとつ記事にしていくことで、多くの人たちに大岡川という河川に興味を持たせることにつながりました。この広報紙の発行と並行してこの河川でのゴミ拾いなどを通じて、河川から流出することで起きている海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックなど、環境問題の普及啓蒙につなげることができています。

3. 今までの活動が、小学校への環境出前授業として実を結んでいます。

NPO 設立から丸 8 年、設立前からの活動も含めて私たちの NPO が得てきたスキルを小学校への環境出前授業や実習に活用し、子どもたちと一緒に社会の課題解決に結びつけています。単発的な出前授業に終わらず、年度内を通じて何度も課題解決に向けて教室での座学、実際の現場での実習、そしてシンポジウムやイベントなどに子どもたちと一緒に参画し、活動報告会を数多く催しています。子どもたちのプレゼン能力も増強することにもつながっています。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

●環境出前授業の中で、子どもたちを対象に、環境学習、自然観察を実施し、さまざまな生き物とのつながりについての理解を深めました。

横浜市立日枝小学校 4 年生との総合学習で、2018 年度、2019 年度と大岡川を中心に蒔田公園内の生物調査を行ない、どんな生き物が暮らしているかを調べました。また、2018 年度は大岡川源流域・氷取沢へバスをチャーターして子どもたちとともに自然観察を行ない、大岡川全体の生き物とのつながりについて理解を深めました。

●川や海岸のごみ拾いを行い、そこに生息する動物の生息環境を改善しました。

横浜市立日枝小学校 4 年 2 組、横浜市立瀬谷第二小学校 6 年 1 組は、それぞれバスをチャーターして茅ヶ崎・サザンビーチへマイクロプラスチック採取、三浦市・城ヶ島へ漂着プラスチック回収を行ない、その海に生息する生き物の生息環境を改善しました。横浜市立荏田東第一小学校 3 年 2 組は、学校周辺から近くを流れる早渕川までのごみ拾いを行ない、生息する動植物の生息環境を改善しました。

●大岡川 PGT 大作戦により、大岡川の生き物たちの生息環境を改善しました。

月に 2 回行なうごみ拾い・大岡川 PGT 大作戦により、大岡川に生息する生き物たちの生息環境を改善しました。

●城ヶ島の海底清掃により、城ヶ島の海の生き物たちの生息環境を改善しました。

ボランティアダイバーを募り、海底に沈むプラスチックゴミを中心にごみ拾いを行ないました。ゴミと一緒に付着海藻の中に潜む甲殻類やゴカイ類などをごみから分離して、見つけた生き物は全て海に戻しました。

●茅ヶ崎沖の海底清掃により、城ヶ島の海の生き物たちの生息環境を改善しました。

ボランティアダイバーを募り、海底に沈むプラスチックゴミを中心にごみ拾いを行ないました。ゴミと一緒に付着海藻の中に潜む甲殻類やゴカイ類などをごみから分離して、見つけた生き物は全て海に戻しました。

●大岡川不法投棄自転車を引き上げ、川底の生き物の生息環境を改善しました。

大岡川に不法投棄された自転車を引き上げました。自転車は牡蠣や藻が付着し、その中に潜む甲殻類やゴカイ類などを分離して、見つけた生き物は全て川に戻しました。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

1.環境をテーマにした小学校の総合学習の支援事業を確立します。

現在は助成によってこの事業がなんとか成り立ち始めていますが、助成金に頼り切らず、きちんと収支バランスのとれた事業として確立します。また、会員の中に生物にとっても詳しいメンバーもいるので、総合学習のコンテンツもさらに増やして、環境に関する総合学習の幅を広げていきます。

2. より多くの子どもたちを環境問題の起きている現場に連れていきます。

2019年度の活動で一番注目を集めたのは、バスをチャーターして子どもたちを小学校から茅ヶ崎海岸や城ヶ島へ連れて行ったこと。海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックの問題を、子どもたちが自分ごととして認識し、自分たちの未来のためにどうしたらいいかを考えさせる機会を与えられたこと。ただ、バスのチャーター代がかなりかかること、また安全管理を徹底するためにスタッフの配置など、困難なことも少なくなく、現実的にはそう簡単ではありません。資金調達、人材確保も含めて、態勢を整え、可能な限り多くの子どもたちを担任の先生と協力し合いながら現場に連れていきます。

3. 刷新したホームページを加え、広報紙と連動した強力な広報を打ち立てます。

ホームページは設立当初からありましたが、広報紙の制作に力を入れすぎていて、更新も思うように進まず、構成も現在の活動に則していないため、2020年1月上旬を目標に完全リニューアル版を製作中です。今後は、広報紙にQRコードを印刷して、QRコードからホームページへのリンクをはかる。多くの企業さまから広告出稿いただいているので、紙面の広告から企業のホームページへのリンクする。紙面に掲載された写真や過去の広報紙バックナンバーなどがスマホやパソコン、iPadなどで見られるようにします。紙媒体の良さとインターネットの良さを両方兼ね備えた最強の広報力で私たちの活動を広報し、さらに多くの人たち、企業、団体、財団、行政を巻き込んだ活動を展開させます。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

1.実施した環境出前授業によって、子どもたちが社会を動かし始めていること。

2018年度に横浜市立日枝小学校で行なった環境出前授業から、子どもたちが給食に出る牛乳パックのストローを使わない活動を自発的に開始し、そのことから子どもたちがストローを使わなくても飲める牛乳パックのデザインに乗り出しました。学校に納入していた横浜乳業に担任の先生からそのことを相談した

ところ、横浜乳業と横浜乳業にパッケージを納入している日本製紙の両社から社員 8 名が来校し、子どもたちのプレゼンを聞き、新しいパッケージのデザインを社内的に開発し始めました。（詳細は添付資料、神奈川新聞切り抜きを参照願います）また、横浜市立瀬谷第二小学校では、ペットボトルから作られた布と自分たちの拾ってきたペットボトルを交換してもらい、その布で自分たちでエコバッグを作成し、近くのフジスーパーに納入予定。レジ袋を使わない買い物に大いに貢献できる予定です。

2.環境出前授業が単発なものではなく、年度を通じて総合学習を支援し、多くの実習を実施していること。

環境出前授業が単に教室内での座学にとどまらず、その年度を通じてしっかりと子どもたちに寄り添い、子どもたちのフレッシュな創造力を引き出すような実習を数多く取り入れて実施していることです。例えば、海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックの問題をテーマにした場合、普通は写真や現物を教室内で見せて終わるのですが、それを茅ヶ崎海岸や城ヶ島まで一緒に実習に行くことで、現状の酷さをそして深刻さを実際に目で見て、手で触って、肌で感じてもらっています。子どもたちに自分たちの未来を自ごととして捉えてもらうために。（詳細は添付資料、大岡川ニュースの切り抜きを参照願います）

3.環境出前授業を通じて、子どもたちの発表の場をさまざまな場所で展開させていること。

環境出前授業を行なったことで、子どもたちのフレッシュな創造力が溢れ出すのですが、普通は学校内での保護者に向けての発表程度で終わってしまっています。子どもたちの感じたまま、考えたままの生な声を、より多くの人たちに聞いてもらうため、校外で子どもたちと一緒に活動報告を行なう場をセッティングして、実施しています。今年度もすでに 11/10 に茅ヶ崎市役所分庁舎で行われた桂川・相模川流域協議会シンポジウムで会場のおよそ 250 名の前で活動報告を行ないました。また 12/5 にも東京ビックサイトで行われる第 21 回エコプロ 2019 に、日枝小、瀬谷第二小ともにそれぞれ小さなブースを出してもらい、そこで子どもたちと一緒に活動報告を行なう予定です。（詳細は添付資料、大岡川ニュースの切り抜きを参照願います）

4.広報紙(大岡川ニュース)の内容とクオリティー

私たちの活動を広く知っていただくために、活動と並行して、活動と同じぐらいの熱量で制作しているのが広報紙です。大岡川流域の探訪、人物紹介、イベント、子どもたちとの環境学習、専門家による水質の話、大岡川に生息する野鳥や昆虫、動物のこと、環境に関するさまざまな独自チャレンジレポート、大岡川の水中ドローン調査、理事長のエベレスト挑戦までの話など、内容も盛りだくさん。毎号編集会議をしっかりと開催して制作し、現在 14 号（創刊準備号を入れると 15 号）まで発行しています。残念ながら添付できる資料の分量制限から添付資料としては提出できませんが、切り抜きはオリジナルを貼り付けておきますので、ぜひご覧いただきたいと思えます。（詳細は添付資料、大岡川ニュースの切り抜きを参照願います）

世界的な海洋汚染や、生物への影響の拡大が懸念されているマイクロプラスチック。身近な川から海へと流れ込むのを防ぐこと、横浜市立日枝小小学校（同市南区）4年3組の児童たちが立ち上がった。市内中心部を流れる大岡川を学んだり、きれいにしたりする活動を通して身の回りのプラスチック製品に関心を広げ、地球環境を守る「大作戦」に挑んでいる。

（三木 崇）

横浜・日枝小児童 大岡川で「大作戦」

「大岡川は、ごみさえなければとてもいい川だと思います。たくさん生き物が暮らしているからです」

11月10日、横浜発展の礎となった市内中心部の「吉田新田」とともに、江戸時代に運河として整備された河川に親しむイベント「横浜運河パレード」の会場で、児童たちが今年5月から半年間の活動の成果を20分近くかけて発表した。

活動名は「かがやけーブルーリバー♡ハッピープロジェクト！」。大岡川でつながり合う大作戦……。川の生き物も自分たちも幸せになるきれいな環境にするために、地域ぐるみでつながろうとの思いを込めた。

■ 衝 撃 ■

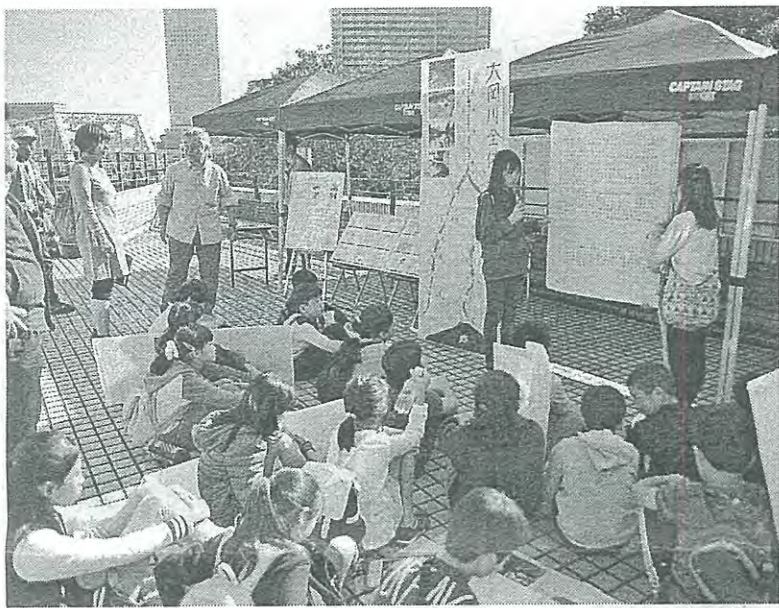
大岡川は、環境に関心を持ったきっかけは今年5月、総合的な学習の1環で吉田新田を知るために校外活動中のごとだった。大岡川をのぞき込むと、川底には自転車やオートバイ、換気扇などが無造作に捨てられているのが見えた。大量のごみに衝撃を受けた。

「川の生き物は幸せなのだろうか。この水で暮らしている大丈夫なのか」

児童たちは、大岡川の親水施設「川の駅 大岡川桜橋」の周辺で市民団体と地元住民らが定期的に行っている清掃活動「大岡川P-GT大作戦」を知った。

主催団体の一つ、NPO法人「海の森・山の森事務局」（同市港北区）理事長の豊田直之さんによる

プラごみから地球守れ



大岡川での活動を紹介します日枝小4年3組の児童ら—11月10日、横浜市西区の日本丸メモリアルパーク

◆マイクロプラスチック 大きさが5mm以下の微小なプラスチック。包装容器やプラスチック製品がごみとして川から海へと流れ込み、壊れて細かくなったもので、世界各地の魚介類や塩、水道水からの検出が報告されている。

海を漂うマイクロプラスチックの多くは川から流れ出ている。きちんと処理されなかったプラスチックごみは風に飛ばされるほか、地面を転がったり雨で流されたりして近くの川に集まると、豊田さんが教えてくれた。

■ 気づき ■

川の周囲をきれいにすることで海の汚れを防ぐことができることを実感したのは、今年7月、大岡川に接した時田公園で「P-GT大作戦」をしたときだった。

回収したプラスチックごみは、お菓子の空き袋やコンビニのレジ袋、空のペットボトルなどがあり、公園で遊ぶ子どもたちのものだと分かった。

「私たちは、気が付かないうちに川を汚して、海のマイクロプラスチックを増やしているかも知れない」

1週間をかけて校舎1階から4階までの廊下や教室を調べた結果、合わせて583本を見つけた。「プラスチックごみを減らすためにはストローを使わないようにすればいい」。世界中で広がるストロー廃止の取り組みに賛同し「ストローを使わない大作戦」を始めることになった。

■ 発 表 ■

それでも、風で舞い込んだ他クラスのストローが教室内でたびたび見つかった。児童からは、全校ぐるみの取り組みとしてストローを使わないように提案しようという意見が出た。

給食の牛乳パックはストローを使う前提なので、飲み口は開けづらくて飲みにくい。1、2年生は牛乳をこぼしてしまう可能性があることから、全校展開は壁に突き当たった。

次に、紙パックではなく、洗えば何度でも使える牛乳瓶を見直そうと議論を始めた。4年3組の教室は校舎の4階で、重い牛乳瓶だと給食当番の負担が大きい。「軽い紙パックの方がいい」との意見が相次いだ。

児童たちが話し合っただけで話したのには「ストローを使わずに、低学年にも飲みやすい紙パックを自分たちでデザインしよう」。

最終的には3種類の牛乳パックのアイデアがまとまった。持ちやすい筒型と伝統の三角形。そして従来型に似た四角形のデザインで、それぞれに展開図を描いた。学校給食用牛乳を製造している横浜乳業と、紙パックを納めている日本製紙の担当者でデザイン案を発表することになった。

1週間をかけて校舎1階から4階までの廊下や教室を調べた結果、合わせて583本を見つけた。「プラスチックごみを減らすためにはストローを使わないようにすればいい」。世界中で広がるストロー廃止の取り組みに賛同し「ストローを使わない大作戦」を始めることになった。

発表会に立ち会った豊田さんは「子どもたちが自ら考えて行動し、社会を変えようとした。大人たちも熱心に話を聞いて、環境問題を語り合う場となった」と、感動で泣きそうになった。

■ 変 化 ■

市内の小学校ではストローは使用後に回収され、新しいストローに生まれ変わるといふ。栄養教諭から教わった児童たちは「ストローを使って飲むのが悪いのではなくて、ストローを落としたまま放置しているのがいけないのでは」と、考えるようになった。

大岡川が将来、青く透き通るようになり、川の生き物も自分たちもハッピーになるように始めた「大作戦」。同じ思いを持つ仲間を増やしていくことが児童たちの目標だ。

地球環境のために、具体的に取組めることは何だろうか。

児童たちは全校で「ストローを落とさない大作戦」を始めてみようと呼び掛けることにしている。担任の渡邊知和教諭は、児童たちの環境意識の変化に目を細める。「マイクロプラスチックの問題を知ったことで、ニュースを意識するようになったんだよ」と言ってくれたのです。

環境のことを授業で取り上げるのは難しい、という意識はあったと明かす渡邊さん。「地域の人たちや地元企業の協力を得てチャレンジしたことで、児童が身近な生活を見直すという意識を持つようになってくれたことがうれしい」

日枝小の子どもたちの大活躍劇! その3 パタゴニア横浜・関内 ストアスタッフ見参!



パタゴニア横浜・関内ストアのスタッフ5名は、子どもたちのわかりやすく、しかもしっかりと連携した見事な活動発表に耳を傾けていました。その後には、じっくりと自然環境とゴミに対する考え方を説明し、今後どのようにしていったらいいのかを子どもたちと一緒に考えていました。

運河パレードでの 子どもたちの発表に感動!

3月8日、この日はアメリカのアウトドア用品メーカーのパタゴニア横浜・関内ストアスタッフと、当NPO豊田理事長、日枝小4年3組との合同授業が行われました。そもそも、昨年11月10日に行なわれた大岡川運河パレードのこと。4年3組の子どもたちは、日本丸メモリアルパークで、豊田理事長と活動報告会を開催。その時たまたまパタゴニア横浜・関内スタッフの方がこの発表を見て、うちのお店でもみんなに発表してもらおうことはできますか? という問い合わせがきっかけで実現したのです。

パタゴニアの取り組みと 子どもたちの取り組みに 共通点があった

4年3組の子どもたちが提案した「給食の牛乳ストロー使わない大作戦」は、子どもたちが本当に牛乳飲むにはストローが必要なのかという原点に立ち返った考え方がベース。牛

乳飲むのにストローはなくてもいい。なら、ストローがなくても飲みやすいパッケージにしてしまえばいいと考えて、みんなでパッケージデザインを考えたのです。

パタゴニアも企業としての責任として、またアウトドアメーカーとしての責任として、特にプラスチックゴミについては早い時期から問題視して、その対策を講じて来ました。それはうわべだけの環境対策ではなく、子どもたちの考えたことに似た、ものを本質的なところから見直して考える。まさにそこに大きな共通点があったのです。

デポジット制という パタゴニア流の考え方

子どもたちの中で、買い物の際にはレジ袋をもらわなければならない、レジ袋が必要な人には500円で売ればいいのかという意見が飛び交う中、市原さん(パタゴニア横浜・関内ストア店長)はこの日こんな話をしてくれました。

「パタゴニアでは、基本的にお買い求めいただいた品物を入れる袋を用意していません。お客様の持って来たバッグに入れていただくのですが、どうしても入れるものがないという場合もあります。そんな時、この袋は有料です。1枚100円のお金を預からせていただきます。次にお店に来ていただいた

際にこの袋をご返却いただけただら、お預かりした100円は返却いたします。こんな仕組みがパタゴニアにはあるんです」

この話を聞いた子どもたちは、今まで自分たちの間では考えたこともないデポジット(保証金)制という新しい発想に目を輝かせていました。

サーキュラーエコノミーの 考え方の原点が すでにあつた

また、パタゴニアのこのデポジット制の袋は、そもそも工場から店舗に運ぶ際に使用するプラスチック袋の素材を開発の時点からリサイクル可能なものに定め、使用した袋はこのデポジット制の袋に生まれ変わります。また、お客様に貸し出した袋も、返却時にはかなりくしゃくしゃになっています。これを再びリサイクルで、お客様用の袋になる。このように一つの材料が、何度もリサイクルされて、無駄になることもないし、ゴミとなることもない。パタゴニアのこの取り組みはもうすでに10年以上も前から、今になって企業の間で

話題となっている「サーキュラーエコノミー」(単なる資源循環にとどまらず、最初のデザインの時点から環境負荷のない素材を使用して、価値創造の最大化をはかる考え方)の原型とも言える考えをすでに採用していたことです。

さすがに子どもたちにはここまでの奥深い話は理解できていなかったか

もしれませんが、おそらく子どもたちの新鮮な感性は、何かしらの電波をキャッチしたはずで

パタゴニア

としても、もう次のことを考



マイバッグ持参を奨励するとともに、無意識に消費され、廃棄、埋め立て処分されるプラスチック袋を削減するためのデポジット制の袋。

に考えたり行動したりして行動しなければならぬ、という話でこの日は終わりました。

日枝小の子どもたちの大活躍劇! その4 目白大学児童教育学科 学生たちとのセッション授業

次の活動に
つながることをどんどん
実践する姿に驚き!

2月5日、目白大学人間学部児童教育学科・石田好広教授のもとで、小学校教諭を目指し日々研鑽を重ねるゼミの学生が6名、日枝小4年3組で子どもたちと海のゴミについてセッション授業を行ないました。

授業が終わって学生たちに感想を聞くと、「子どもたちと意見交換の場となつてすごく有意義でした。かなり刺激受けました」、「受け身の学習だったらここまでの発表はできないです。活動に対して本気だからこそ、あれだけしっかりとした発表ができるんですね」、「すごいのは、どんどん次の活動につながることを実践していることです」。



目白大学・石田ゼミで、石田教授と小学校教諭を目指す学生たち。左から、茂戸藤さん、赤地さん、石田教授、三浦さん、菊名さん、宮嶋さん。(※久野さん当日欠席のため不在)

未来の小学校の 先生たちに さらに期待したい!

いまや環境教育は、SDGsの内容も含めて小学校の教科にさまざまな形で関わってきています。しかし、環境教育は、何かしらのアクションを起こしても、その成果が見えてくるのにも時間がかかります。そんな手探りな要

素が多い中、ゼミの学生たちは、ゴミ拾いの活動などにも積極的に参加したり、オリジナルの海ゴミ劇などをわかりやすく見せたり若いセンスで挑戦しています。今後、当NPOでも石田ゼミの学生たちと連携し、多様な活動の場を提供したり、協働の取り組みを展開していく予定です。



ゴミ拾いなどの活動にも参加してはいるものの、基本的にはパソコンなどからデータ収集していた学生たち。ゴミや生き物たちの情報を具体的に現場で得てきた子どもたちとのセッション授業を通じての意見交換で、子どもたちの発想の豊かさに大いに刺激を受けたという。

総合建設業

株式会社 **キクシマ**
www.kikushima.co.jp

注文住宅建築・集合住宅建築・教育施設建築・福祉施設建築・商業施設建築
耐震補強工事・リフォーム・リノベーション・鉄骨製作工事
☎ 0120-96-6663 本社: 横浜市港南区港南台 4-39-7



横濱
いせぶら
パウンド
YOKOHAMA
ISEBURA POUND

合名会社川本屋商店
横浜市中区伊勢佐木町 6-146 ☎045-261-7652



パタゴニア横浜・関内ストア店長の市原士郎さん。茅ヶ崎に住む、根っからのサーファー。

日枝小学校への環境出前授業



フィールドに出ると、子どもたちの好奇心はすでに全開状態。サブサブと水の中に入って行き、エビやカニを捕まえてきます。男の子だけかと思えば、女の子も上手にカニを捕まえてきていて、あっという間に教室はカニの博覧会会場になってしまいました。



アクアパークは潮の満ち引きの影響を受け、大岡川と中村川から海のゴミが逆流して来たり、上流から流れ着いたりします。この日もそこそこの量のゴミが獲れました。



組石の間に潜むカニを見つけると、みんなで協力してカニをおびき出して捕まえます。

すでに6月5日に教室で大岡川の環境とゴミについての環境出前授業で座学を終えた横浜市立日枝小学校4年2組。翌週の12日には、学校からほど近い蒔田公園内にあるアクアパークに生き物観察に出かけました。アクアパークは、神奈川県横浜・川崎治水事務所が管理していて、治水事務所から許可をもらい、鍵も借りて中へ。

「まずはみんなでゴミ拾いをして、アクアパークをキレイにしましょう!」という担任の渡邊先生の掛け声とともに、子どもたちはゴミ拾いを開始。あっという間に空き缶、ペットボトル、発泡スチロールの箱、レジ袋などが集まります。拾ったゴミを全て学校へ持ち帰って検量すると、プラスチックゴミ1.2kg、空き缶0.25kg、ペットボトル0.3kgでした。

カニをたくさん捕まえました

子どもたちはやはり水遊びが好きです。水に入れる準備をしてきていて、救命胴衣を着用した子どもたちは、腰のあたりまで平気で水の中に入っていきます。手には網を持ち、男の子も女の子も。

「うわあ、大きなコイが泳いでた・・・」

「汽水域は海水と淡水が混じるところだから、淡水魚のコイがいたり、海の生き物の両方がいる



軍手をすれば、ちょっとくらいカニに挟まれても大丈夫。こんな子どもたちの臆白さこそが、今地球が抱える環境問題を快方に向かわせるキーワードなのではないでしょうか?

んですね・・・」子どもたちに何かを教えるには、やはり現場が一番です。

子どもたちは、いろいろな生き物を捕まえてきます。ペンケイガニの仲間、イソガニの仲間、外来種のチュウカイミドリガニ(詳しくは3ページ)、スジエビの仲間などが獲れました。今年度後半の子どもたちの発表が今から楽しみです。



授業は、教室に設備されている50インチほどの大きなモニターに映像を映し出して進めて行きます。子どもたちは好奇心に満ち溢れ、モニターに大写しになった写真を見つめます。写真は、雄弁に子どもたちへメッセージを語りかけてくれます。撮影:中城早貴(6年1組担任)

瀬谷第二小学校への環境出前授業

「この写真は、湘南海岸に打ち上げられたアオウミガメのお腹の中から出てきたプラスチック袋、みんながビニール袋と呼んでいるものの破片です。こんなにたくさんお腹の中にあつたら、きっとこのカメも辛かったでしょうね・・・」

子どもたちは一瞬目を輝かせたものの、次の瞬間、ウミガメの無念さなのか、野生動物に対する配慮のない行為に憤りを感じたのか、みんな無口になりました。そう、ここは横浜市瀬谷区、もうす

ぐその先が大和市になる瀬谷第二小学校6年1組の教室内。

6月13日の午前中のことです。まだあまり使ったことのないFaceTimeに電話がかかって来ました。どうしたらいいのかわからないまま慌てて携帯を取り上げると、画面には小学生の男の子と女の子の顔が見えます。一瞬の沈黙の後。「こんにちは、ボクたちは・・・」と自己紹介があった後、何と子どもたちから直接、環境出前授業の依頼を受けました。

内容は、海のプラスチックゴミについてと、SDGsについての授業をやってほしいという話。翌週の6月18日に実施するというので決まり、実施してきたのです。

次は、7月中旬にクラス全員で湘南茅ヶ崎海岸に行き、マイクロプラスチックの粒子を採取してきます。マイクロプラスチックの実物を目の前にして、今後、担任の中城先生と連携しながら、マイクロプラスチックについて子どもたちと一緒に考え、行動していきます。

日枝小5年生たちの活躍!



私たちが見過ごしてしまいがちな植え込みの中までゴミを探します。ゴミ拾いに対する熱意は、子どもたちの方がはるかに強いかもしれません。撮影:道下勝基

昨年度、4年3組の子どもたちは、当NPOの主催する大岡川PGT大作戦に毎回参加し、特にプラスチックゴミについて大いに関心を抱き、給食の牛乳をストローを使わないで飲む運動までに発展。さらにはストローを使わないでも飲める牛乳パックの開発にまで関与し世

の中にセンセーションを起こしました。

普通はそれで学年が終われば終わりです。しかし、4年3組の多くの子どもたちは、5年生になって3つのクラスに分かれたにも関わらず、各クラスで有志を集い、今年度のPGT大作戦

にも毎回参加してくれています。しかも義務感ではなく、毎回楽しそうに自主的に参加してくれているので、主催者側も嬉しくなっています。

そこで、私たちが子どもたちがSUPに乗ってゴミ拾いができるように、当NPOと横浜SUP倶楽部との協働で、8月に5年生対象の無料SUP教室を開くことにしました。ぜひSUPでゴミ拾いができるようになってもらいたいと思います。



ゴミの検量の際に電卓で計算してくれたり、もうスタッフの一員です。撮影:道下勝基



吉田興産グループ
横浜市中央区長者町9丁目175番地 TEL045-251-4545

総合建設業 **株式会社 キクシマ**
www.kikushima.co.jp

注文住宅建築・集合住宅建築・教育施設建築・福祉施設建築・商業施設建築
耐震補強工事・リフォーム・リノベーション・鉄骨製作工事
☎ 0120-96-6663 本社:横浜市港南区港南台 4-39-7



横濱 いせぶら パウンド
YOKOHAMA ISEBURA POUND

合名会社川本屋商店
横浜市中区伊勢佐木町 6-146 ☎045-261-7652

日枝小学校への特別SUP実習

横浜SUP倶楽部との協働実施

私たちの実施するPGT大作戦の中で、他のゴミ拾いを行なっている団体の活動と大きく違うところが、SUP班によるゴミ拾い。将来的には子どもたちにもSUP班の一員として活動してもらいたいため、当NPOと横浜SUP倶楽部との協働で未来のSUP班養成を行ないました。

参加したのは横浜市立日枝小学校の4年生と5年生16名。日頃のPGT大作戦に参加してくれているご褒美も兼ねています。

事前に保護者の方たちにもそれぞれ承諾をいただき、保険にも加入し、SUPインストラクターの指導の下実施しました。

全員立ってSUP漕ぎました!

最初は揺れるボードの上で不安いっぱいだった子どもたち。少し練習すると、あっという間に膝立ち状態で漕げるようになり、しばらくすると立ち上がって漕ぐ子どもも。結果的には16名全

員がボードの上に乗って漕ぐことができました。「前から乗らなかったのだから乗れるようになって嬉しい!」、「乗るのに精一杯でゴミ拾いはできなかった!」、「また乗りたい!」そんな子どもたちの喜びの声にあふれた特別SUP実習となりました。



最初は不安いっぱいだったのに、ボードの上で立ち、手を振る余裕すらありました。撮影:道下勝基



PGT大作戦の行なわれた8月17日。子どもたちは午前中にPGT大作戦をこなし、午後からのSUP実習となりました。まず陸上でパドルの使い方やボードの上での立ち方などを習い、その後ボードに乗って、桜橋から漕ぎ出しました。撮影:道下勝基

瀬谷第二小学校への環境出前実習



海がすぐ近くにはない瀬谷第二小学校。街中の放置されたり、ポイ捨てされたゴミが、川から海に流れ出し、そして風と潮の流れでここに打ち上がる。その現実を目のあたりにして驚くとともに、このままでは海が大変なことになる。自分ごととして捉えてもらえたようです。撮影:道下勝基

漂着プラスチックゴミの視察と実習

海洋プラスチック汚染の現場を見て、何かを感じ、自分ごととしてこの問題を捉え、考えて行動する。そんな子どもたちのアクションを導くべく、9/19に瀬谷第二小学校6年1組の子どもたち32名、教員3名、PTA役員2名と、東京湾と相模湾のプラスチックゴミの漂着する三浦市城ヶ島へ。ヨコハマSDGsデザインセンター、城ヶ島ダイビングセンター、城ヶ島漁業協同組合にもご協力いただき実現しました。

40.836kgのゴミを回収!

なぜここにこんなにたくさんのプラスチックゴミがあるのか、このあとこのゴミがどうなるのかを考えてもらいながら、一緒にゴミ拾い。1時間半ほどで40.836kgのゴミを



救命胴衣を着用し、梶ノ浜臨の磯場に打ち上がった大量のプラスチックゴミをみんなで一緒に拾いました。撮影:道下勝基

拾い、三浦市のゴミ分別方法に沿って分別し、適切に処理しました。

ダイワヤングフィッシングクラブとの協働

釣り具メーカー「DAIWA」(グロープライド株式会社)が運営する子ども向けの釣りクラブ・ダイワヤングフィッシングクラブ。釣りの技

術やマナーの向上、釣り場となる海岸や河川でのゴミ拾いなども行なっています。このクラブとの協働で城ヶ島ビーチクリーン活動を展開しました。

大正小学校への環境出前授業



海で暮らす生き物たちが人間の捨てたプラスチックゴミに苦しめられている例を出し、どうしたらプラスチックゴミを減らすことができるのかを子どもたちと考えました。撮影:荒木真登

戸塚区にある横浜市立大正小学校の5年生からも、海のプラスチックゴミについての環境出前授業の依頼がきました。7/18、5年生ほぼ100名

の前で、プロジェクターで映像を大写しながら、今海で何が起き、ふだん使っているプラスチックがどのようにになっているのかを話しました。

馬場小学校 学童保育への出前授業

鶴見区にある馬場小学校の学童保育施設からもご依頼をいただきました。子どもたちも1年生から6年生までいるので、話のレベルをどこに合わせ

たらいいか迷いましたが、映像で伝えるとうまくいくものです。授業後はなぜかサイン攻めに。楽しい出前授業となりました。



プロジェクターで壁に映像を映し、床に直座りで展開。なぜ海にプラスチックゴミがたくさんあるのか、そしてこれらがどのようにしていくのかを丁寧に説明しました。撮影:保育スタッフ



当NPOとD.Y.F.Cとの協働で、三浦半島先端の城ヶ島・水産試験場脇の入江でビーチクリーン活動を展開。漂着した大量のプラスチックゴミを拾いました。撮影:田中篤

「大岡ハゼ丸」のステッカー提示で
アイスワロン茶1杯サービスいたします!

横濱 一品香
CHINESE KITCHEN

ジョイナス店・港南台店
若葉台店・保土ヶ谷店
ららぽーと店・上大岡店
センター南店・町田店

たんめんと中国家庭料理

吉田興産グループ
横浜市中央区長者町9丁目175番地 TEL045-251-4545

総合建設業 **株式会社 キクシマ**
www.kikushima.co.jp

注文住宅建築・集合住宅建築・教育施設建築・福祉施設建築・商業施設建築
耐震補強工事・リフォーム・リノベーション・鉄骨製作工事
☎ 0120-96-6663 本社:横浜市港南区港南台 4-39-7

横濱 いせぶら パウンド
YOKOHAMA ISEBURA POUND

合名会社川本屋商店
横浜市中区伊勢佐木町 6-146 ☎045-261-7652

前回受賞からの発展内容

NPO 法人海の森・山の森事務局

前回、環境活動賞奨励賞をいただいた平成 25 年（2013 年）の時は、NPO の知名度もなければ、当然のことながらご支援いただける方や団体もほんのわずかでした。それからの 6 年間でかなりの進化を遂げています。

1. 会員数 10 数名から 216 名へ増加。

2013 年は会員数 15 名ほどでしたが、現在は 216 名。活動が盛んになり、活動助成金の獲得が増え、活動に幅が出て来て多くの人たちが集まるようになりました。またそのことで企業や財団などからの協力や支援が得られやすくなり、自然と会員数が増えて行きました。

2. 広報紙の充実。

2016 年の 4 月に私たちの広報紙「大岡川ニュース」の創刊準備号を発行し、同年 7 月に創刊しました。環境の団体が出す広報紙なので、環境に配慮した印刷とするために株式会社大川印刷に印刷をお願いし、FSC 認証紙、ゼロカーボンプリントを創刊当初から採用。インターネットではなく、紙媒体によるビジュアル表現で広報したことが多くの方たちから応援を得ることができました。会員数が増えた立役者としても、広報紙が大きなチカラになっています。今年度は、さらにインターネットと連動する広報を準備していて、2020 年 1 月より完全リニューアルしたホームページが立ち上がる予定で、広報紙とインターネットの二人三脚の広報が始まります。

3. 新聞やテレビ、ラジオなどで取り上げていただけている。

私たちの広報紙や SNS などによる発信で、新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミが反応してくれています。活動などを取り上げていただける機会が増し、そのことが認知度を増すことにつながったり、支援を得られることにつながったり、会員獲得につながったりという相乗効果が出てきています。

4. 他団体や企業、財団、行政、学校との連携。

2016 年にはごくわずかな連携しかありませんでしたが、現在は応募用紙に記載されたように他団体や企業、財団、行政、学校、町内会などとの連携が、しっかりと歯車が噛み合うように力強く連携できて活動できています。

5. 小学校の総合学習の支援展開が急速に発展しています。

自分たちのスキルを社会の課題解決に結びつけるために、小学校の総合学習に環境をテーマに取り組むことの支援を 2018 年度から開始。2018 年度にありとあらゆる面から環境出前授業のあり方を徹底的に調べ、思いついたことは担任の先生とも相談しながらトライして問題点を洗い出しました。また、環境教育の先進的な取り組みをしている仙台市と宮城県へのヒアリングと視察も行ないました。なかなか外部からは入り込めない小学校に、2019 年度はすでに 6 校も関わっており、2020 年度はさらに数が増える気配が見えてきています。担任の先生とともに、環境テーマの総合学習で子どもたちに課題を自ら気づかせ、その課題を子どもたちひとりひとりを当事者として捉えさせ、子どもたちの創造力を導き出して一緒に問題解決の糸口を探ります。